

# 世界史研究推進委員会

共同研究「高大連携」および「世界史への興味・関心を育む教材・指導法の研究」経過報告

舞岡学校 中山拓憲

2019年度も、県内の高等学校を会場としてお借りし、2か月に1回の委員会（例会）や、夏の高大連携講座等の催しを行ってまいりました。会場を貸して下さった各学校の関係者の皆さま、協力して下さいました方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

世界史研究推進委員会における「高大連携」「世界史への興味・関心を育む教材・指導法」についていくつかの取り組みを報告させていただきます。

## 高大連携について

今年度の高大連携講座は、鎌倉学園高校を会場8月8日～10日の3日間、「現代のヨーロッパをどう学ぶか1」というテーマで行いました（別記事参照）。高校・大学の教員が、今後の歴史教育を議論し発進していく場である高大連携歴史教育研究会にも本委員会の委員が所属しています。今年度も、7月に北海道で行われた大会に参加する等、各県の研究成果を吸収してまいりました。

## 例会における読書会

例会においては読書会を行っております。各回の担当者が作成したレジュメを用いて議論を行っております。今年度扱ったのは南塚信吾著『運動する世界史』（岩波書店）です。時代は、歴史総合の「近代化」の時代。この時代の世界の各地域（もちろん日本も！）の関係性に注目した記述が特徴的な本です。なぜ最初に和親条約を日本と結んだのがアメリカだったのか？など、「歴史総合」の題材になりそうなネタにあふれた本でした。今年度は、長谷川修一・小沢実編著『歴史学者と読む高校世界史』（勁草書房）を扱います。「教科書を教える」のではなく、「教科書で教える」事を求められている我々にとって、教科書の背景を知ることの出来る貴重な機会だと考えております。

## 若手の活躍

今年度は、多くの優秀な若手たちに出会えた一年でもありました。今年の高大連携講座で Twitter などを用い生徒教員間の双方向的な発表をした当委員会の徳原先生をはじめとして徐々に若手の先生が増えていきます。彼らは例会でも実践報告などを行ってくれています。県外にも、徳原先生とともに高大連携講座で抗議を行った静岡県牧野先生や、午後の研究協議を盛り上げて下さった埼玉県の武井先生など、元気な若手に出会えました。おそらく県内にも向上心を持った若手が増えてきているはずです。そういった若手が来たいと思える委員会でありたいと思った次第です。

## 終わりに。今も歴史の最中であることについて

私は、当委員会の目指すところは、研究（最新の歴史）と、授業に結び付けることだと考えております。授業で使えるような研究成果を我々が吸収し、授業実践の形で、県内の先生方に紹介できればと考えております。

現在、コロナウィルスが世界中に広がり、多くの公立・私立学校が臨時休校になり、さらには我々の歴史分科会研究発表会も中止にせざるを得ませんでした。これ以上、犠牲者を出さずにすむよう、知恵を出し合えればと思います。こういった不測の事態に対処するためにも歴史は重要だと考えます。本委員会では、歴史や歴史研究の成果を楽しく勉強しながら、生徒の興味・関心を育む教材・指導法の研究に努めてまいります。若手、ベテラン関係なく、興味のある先生方は気軽にご参加ください。詳しくは湘南高等学校中山拓憲までご連絡ください。